

## 一日研 報告

- 1 期 日 12月27日 9:00~17:00
- 2 場 所 総社東公民館
- 3 参加者 O、AS、AK、AR、YO、CH
- 4 内 容

### 書籍紹介

- ・『「聴く」ことの手』 鷺田清一 (O)

### 授業記録

- ・『ごんぎつね』 (AS)
- ・『大造じいさんとがん』 (AK、AR)
- ・『ひばりのす』 (YO)

### 授業映像

- ・『ごんぎつね』 (AS)
- ・『大造じいさんとがん』 (AK)
- ・『ひばりのす』 (YO)
- ・『側転』 (AK)

### 版画『花』 (AS)

多色刷り版画下書き『古い城』 (AK)

映像『側転』 (AK)

鷺田清一『「聴く」ことの手』は、子どもを常に験す(ためす)ために訊くことの異常性を取り上げ、それが子どもへの信頼を欠いた態度だということを指摘していました。子どもを験すためではなく、子どもの考えを知りたいと願い、子どもから学ぼうという姿勢がわたし達には必要ではないでしょうか。

とはいえ、わたし達の授業も験すばかりになりがちです。今日の記録からもその傾向が見て取れました。教師の解釈と合致する考えに網を張ってしまうのではないのでしょうか。まずは、子どもの考えを引き出すこと。そして、教師の解釈との「ギャップ」に網を張って、そのギャップを問題にしていくこと。その問題を言葉を使っていっしょに解決していく。そのようにして、子どもの意見を生かしながら授業を進めていくことが、子どもを主体的にしていくのではないかと思います。文責AR